

令和7年度

学校関係者評価報告書

学校法人 宮崎総合学院  
九州工科自動車専門学校

令和8年2月  
学校法人 宮崎総合学院

九州工科自動車専門学校  
校長 中 広 義 隆

令和7年度 「学校関係者評価委員会」報告について

学校法人 宮崎総合学院 九州工科自動車専門学校では、平成26年度より、教育内容及び学校運営に関する業務について、更なる改善・向上を図るため、本校のホームページ上に公表いたしております。

令和7年度につきましては、時期を見て対面にて開催いたしました。

本校に関連ある企業・業界団体・教育関係者の方々に、本校の教育活動や学校運営に関して貴重なご意見・提言等をいただき、今後の学校運営や評価の在り方について、更なる改善を図るため努力いたしております。評価委員の皆様にも、改めて感謝申し上げます。

今回の評価結果を真摯に受け止め、今後とも、業界・地域・学生のニーズに応えられる学校運営を目指し、教職員一同、鋭意努力いたす所存でございます。

引き続き、一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

1. 学校関係者評価委員一覧表（順不同・敬称略）

1	九州産交整備株式会社	代表取締役社長	梅木 博文
2	熊本トヨペット株式会社	常務取締役 サービス部担当	中山 英治
3	熊本日野自動車株式会社	TS 推進部 整備科 次長	平川 幸一
4	熊本日産自動車株式会社	サービス部長	工藤 真二
5	株式会社スズキ自販熊本	管理部長	福山 敏章
6	(一社) 熊本県自動車整備振興会	専務理事	緒方 勝行

## 2. 「学校関係者評価」の実施方法について

### (審議事項)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる事項について審議する。

- (1) 教育課程のカリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2) 各教育科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3) 各授業科目間の調整に関する事項
- (4) その他、人材育成に必要な教育に関する事項

### (組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 業界全体、職能団体、地方公共団体等の役職員
- (2) 学会や学術機関等の有識者
- (3) 企業や関係施設の役職員
- (4) 教育課程編成の責任者又はそれに準ずる者

2 前項の1号又は2号から少なくとも1名、3号から1名を必ず選出するものとする。

## 3. 委員会次第 (概要)

### (1) 各種報告

- ・資格試験・講習
- ・学校教育法の一部を改正する法律に関して  
教材導入・指導者教育
- ・学則変更に関して
- ・自己点検評価
- ・修学支援 現状 その他

### (2) 学校概要説明

- ・令和7年度合同企業説明会
- ・就職関係 (求人・内定状況等)
- ・学生募集状況等
- ・財務関係
- ・スポーツ・IT科状況
- ・その他

### (3) 討議・意見交換

(詳細は後記のとおり)

#### 4. 討議・意見交換について

各評価委員から、様々な視点からご意見・ご指摘をいただいた。討議内容をまとめて記載。

##### (1) 自己点検評価について

- ・自己点検評価項目では最高評価が4となっており、すべ他の項目で2を上回っており、最低評価であった2.5のボランティア活動の奨励とあるが、本校では献血によるボランティア活動を推奨している。他、外部からのボランティア要請は学生に情報を伝達し参加を促している。
- ・前回より評価が下がった点は責任者に意識して改善していくように指導が必要。
- ・改善を行うにしても自分達だけでは出来ないことがあるため限界がある。外部の助けを借りる等してはどうか。
- ・業務の効率化や情報システムの活用について、他の学校を視察するなど外部の様子を見ることの検討。

##### (2) 学生支援について

- ・地域定着化の課題として、県内企業への留学生定着のためインターンシップの活用や既に留学生が活躍している企業による説明会の実施が有効であるのではないか。
- ・卒業生による学校訪問と体験談の講習を取り入れてみては。

##### (3) 技能コンクールについて

- ・今年度は、企業様用のテーブルを廃止し椅子だけ用意して自由に観覧できるようにレイアウトを変更。ドリンクサービスも実施し好評に終わった。やはり会場は暑くなったので熱中症対策が必要。来年度はエアコンが設置される予定。
- ・審査を各企業のサービストレーナーに行っていただき好評を得た。
- ・スキャンツールを活用し、ディーラー等で行っている点検整備に近い状況で行う。

##### (4) 学則の改訂、カリキュラム変更について

- ・昨今の物価上昇が原因で授業料も上げざるを得ない状況。1割程度の値上げをする。
- ・令和8年度より単位制が強制的に導入されることにより、本校では7年度入学生にすでに単位制を導入しており（もちろん時間数も合わせて基準をクリアさせている）卒業時には単位で表記できるようにしている。
- ・文部科学省通達に基づき、学科15時間、実習45時間を1単位として算出。本校では合計1,700時間超のカリキュラムを編成しており、大学編入時にも互換可能な単位体系を構築している。
- ・従来の専門課程から「特定専門課程」へ移行するため、文部科学省の定める新基準（62単位以上等）への適合を図る。本校のカリキュラムは年間32単位、2年間で64単位の設定となっており、基準値を十分に上回る。なお、「専門士」の称号付与を

継続するには、学則に「特定専門課程」の名称を明記することが必須要件となるため、次年度の学則改訂を確実に行う。

- ・金曜午後に通常授業から「格差是正・深化時間」へ転換する。成績不振者には「補修によるボトムアップ」を、成績優秀者には「企業講習等によるスキルアップ」を提供し、一律的な教育から脱却したきめ細かな指導を実現する。同時に、教員の授業準備時間を確保し、組織全体の働き方改革を推進する。
- ・修学支援としては、行政からの修学支援対策をしっかりと伝え、さらに企業様の育生社員制度、企業奨学金の紹介を連携して広報していくことを約束した。本校としては、進級時特待性をこれからも継続していく。

#### (5) 就職関係について

- ・熊本県内の労働市場は、TSMC 進出の影響を受け劇的な変化を遂げている。
- ・求人倍率の推移：求人数は約 200 社、3,000 人超。1,900 名超の求人が県外から寄せられるなど、全国的な整備士不足が本校への需要を押し上げている。
- ・地域独自強み：育成社員制度：「企業が社員として採用した後に学校へ通わせる」という熊本県独自の制度は、愛知県等の他地域にもない強力な地元定着スキームとして、企業から高く評価されている。
- ・TSMC 進出に伴う多言語能力の戦略的価値：TSMC 関連の顧客対応において、英語、ネパール語、中国語、日本語の 4~5 ヶ国語を操る留学生が「通訳なしで対応可能」な即戦力として重宝されている。特に通訳を帯同しない非役員クラスの外国人スタッフに対し、留学生の言語能力はディーラーにとって不可欠な競争優位性となっている。

#### (6) 募集活動について

- ・担当者より、現在の募集状況と今後の活動方針について報告がなされた。

##### ・自動車整備科：

- オープンキャンパス(OC)を計 12 回実施し、延べ 59 名が参加した。
- 保護者の同伴率が非常に高く、説明の際は高校生だけでなく保護者向けの視点も重視している。
- 現在、2026 年度入学者としての出願数は 61 名、実入学者数は 58 名となる予定である(目標 60 名に対し、出願数では達成したが実入学数では僅かに届かない見込み)

##### ・国際自動車科(留学生対象)：

- OC 参加者は 52 名で、主に県内の日本語学校からの参加であった。
- 定員 35 名に対し 60 名の出願があり、35 名の入学が確定している。定員に達したため、補欠合格や追加募集を駆使して調整を行っている。
- 2027 年度は反動による減少が懸念されるため、県外の留学生募集にも注力する方針。

##### ・スポーツ・IT 科：

- セレクション等を経て、現在のところ5名の入学を予定している。

・全体概況:

- 3学科合計で98名の入学予定となっており、OCの動員数が出願数に直結している傾向がある。

・募集戦略と今後の取り組み(2027年度入学者向け)

・**早期化への対応**: 高校生の進路決定が早まっており、直近のOCでは参加者全員が高校2年生であった。1・2年生のうちからファンになってもらい、3年生の春には出願準備が整う状態を目指す。

・**広報活動**: テレビCM、熊本市内の大型モニター広告、高校訪問(年4回程度)を継続し、空中戦と地道な足を使った活動を併用する。

・**イベント展開**: 正社員制度説明会や企業奨学金制度説明会など、特定のテーマを持たせたOCを展開し、ホームページで告知を行う。

・**新制度「総合型選抜(AO)」の導入**: 来年度から熊本県でも総合型選抜のエントリー制度が7月から開始される。これに合わせ、6月頃からOC参加者に対してエントリーシートを配布するなど、県外(福岡など)への学生流出を防ぐための早期アクションを強化する。

(7) その他

- ・**教職員の勤務体制**: OCや入試が行われる土曜日は、学校の活気をアピールするためにも原則出勤日としている。年間の変形労働時間制を採用しており、土曜出勤の代わりにお盆やゴールデンウィークに長期休暇を設定し、有給休暇の消化も推奨している。
- ・**小中学生へのアプローチ**: 将来的な「車好き」を増やすため、企業や自治体と連携し、小中学生を対象としたイベントへの参画も検討していく。
- ・**財務状況に関して**: ホームページに掲載している旨連絡し、各自確認していただくようお願いしている。

ご指摘・ご提言いただいたことを真摯に受け止め、より良い環境を作るべくできることを実施してくことを伝え閉会した。

—以上—

記録: 瀬尾